

令和元年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs 主要なゴール番号	SDGs ゴール番号	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)			R1年度				R3年度予算要求に向けた施策の方向性
							指標名等	現状値(基準値)	H30年度	R1年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	
I-1-(2)-⑤ 子どもの特性を伸ばす教育の充実	1	④	④⑪	博物館セカンドスクール事業	自然史・歴史博物館普及課	博物館を第二の学校と位置づけ、修学旅行・社会見学など学校教育の一環として、子どもたちの博物館利用の促進を図るものである。	学校団体誘致数	目標	1,200 団体	1,000 団体	1,000団体以上(毎年度)	1,487	1,344	1,320	16,075	課長	0.05 人	順調	隣接する大規模テーマパークの閉園に伴い来館者数の減少が予測されたため、来館実績及び、来館予測に基づいた誘致活動を実施した結果、団体入館者数の減少を最小限にとどめることができた。 また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年2月28日より施設を休館したことにより、目標に届かなかった。しかし、概ね目標を達成できたため「順調」と判断。	順調	博物館を第二の学校として位置づけ、子どもたちの学習意欲を喚起するなど、学校教育支援をさらに推進する。 また、文学館については、周辺施設との連携などにより、来館者やリピーターの増加を図る。
								実績	1,043 団体	947 団体											
							学校関係入館者数	目標	80,000 人	70,000 人	70,000人以上(毎年度)	17,132	8,784	16,912	30,950	課長	0.30 人	大変順調	文学館は令和2年3月にリニューアルオープンするため、令和元年9月から閉館していたが、企画展を3回、館外企画展を1回行い、入館者数は目標を上回ったため「大変順調」と判断。	職員	3.00 人
						実績	78,290人(H24年度)	69,340 人	62,479 人	達成率											
	2	④	④⑪	文学館普及研究費	文学館	北九州市ゆかりの文学者の業績を企画展等で紹介するとともに、本市の文芸の振興に功績のあった文学者を市内外に発信する。	入館者数	目標	22,000 人	7,500 人	30,000人(R2年度)	17,132	8,784	16,912	30,950	課長	0.30 人	大変順調	文学館は令和2年3月にリニューアルオープンするため、令和元年9月から閉館していたが、企画展を3回、館外企画展を1回行い、入館者数は目標を上回ったため「大変順調」と判断。	職員	3.00 人
						実績	10,741人(H23年度)	21,711 人	20,896 人	達成率											
I-1-(3)-② 家庭教育支援の充実	3	④	③④⑪⑰	家庭・地域・学校パートナーシップ事業	生涯学習課	家庭教育学級や子育てサポーターなどの活動を通じて、保護者の不安を軽減するため、関係機関や関係部局と連携しながら、情報提供、啓発活動を行い、保護者が家庭教育について学ぶ機会の充実、子どもの基本的な生活習慣定着への理解を促すための情報提供、啓発活動を進める。	朝食を毎日「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒の割合	目標	小:100% 中:100%	小:100% 中:100% (H30年度)	6,282	4,617	3,993	9,150	課長	0.10 人	順調	近年、核家族世帯や共働き世帯が増加する中、家庭教育学級の運営方法について、学級委員が無理なく楽しく活動ができるよう学級委員会の役割分担等を見直した。 家庭教育学級長向けアンケートの満足度の成果指標の達成率が60%を超えているため「順調」と判断。 加えて、家庭教育学級に参加できない保護者等を対象に、家庭教育力の向上を図るため、いつでもどこでも見ることができるウェブ漫画を作成し、子育て支援に関する情報発信を行った。	順調	引き続き、市民センターの関わり方等、家庭教育学級の実施・運営方法等について、関係者へアンケートを実施するなど見直し効果を検証する。 また、子育てサポーター養成後、実際の活動につながるよう、市民センターや関係局との協議を継続する。	
								実績	小:93.0% 中:91.9% (H25年度)												小:91.8% 中:89.0%
							家庭教育学級長向けアンケート満足度	目標	65 %	85% (R2年度)	6,282	4,617	3,993	9,150	課長	0.20 人	順調	近年、核家族世帯や共働き世帯が増加する中、家庭教育学級の運営方法について、学級委員が無理なく楽しく活動ができるよう学級委員会の役割分担等を見直した。 家庭教育学級長向けアンケートの満足度の成果指標の達成率が60%を超えているため「順調」と判断。 加えて、家庭教育学級に参加できない保護者等を対象に、家庭教育力の向上を図るため、いつでもどこでも見ることができるウェブ漫画を作成し、子育て支援に関する情報発信を行った。	職員	0.80 人	
						実績	—	57.3 %	達成率												88.2 %
I-1-(3)-③ 地域全体が教育を支える社会の実現	4	④	③④⑪⑰	家庭・地域・学校パートナーシップ事業	生涯学習課	家庭教育学級や子育てサポーターなどの活動を通じて、保護者の不安を軽減するため、関係機関や関係部局と連携しながら、情報提供、啓発活動を行い、保護者が家庭教育について学ぶ機会の充実、子どもの基本的な生活習慣定着への理解を促すための情報提供、啓発活動を進める。	朝食を毎日「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒の割合	目標	小:100% 中:100%	小:100% 中:100% (H30年度)	6,282	4,617	3,993	9,150	課長	0.10 人	順調	近年、核家族世帯や共働き世帯が増加する中、家庭教育学級の運営方法について、学級委員が無理なく楽しく活動ができるよう学級委員会の役割分担等を見直した。 家庭教育学級長向けアンケートの満足度の成果指標の達成率が60%を超えているため「順調」と判断。 加えて、家庭教育学級に参加できない保護者等を対象に、家庭教育力の向上を図るため、いつでもどこでも見ることができるウェブ漫画を作成し、子育て支援に関する情報発信を行った。	順調	引き続き、市民センターの関わり方等、家庭教育学級の実施・運営方法等について、関係者へアンケートを実施するなど見直し効果を検証する。 また、子育てサポーター養成後、実際の活動につながるよう、市民センターや関係局との協議を継続する。	
								実績	小:93.0% 中:91.9% (H25年度)												小:91.8% 中:89.0%
							家庭教育学級長向けアンケート満足度	目標	65 %	85% (R2年度)	6,282	4,617	3,993	9,150	課長	0.20 人	順調	近年、核家族世帯や共働き世帯が増加する中、家庭教育学級の運営方法について、学級委員が無理なく楽しく活動ができるよう学級委員会の役割分担等を見直した。 家庭教育学級長向けアンケートの満足度の成果指標の達成率が60%を超えているため「順調」と判断。 加えて、家庭教育学級に参加できない保護者等を対象に、家庭教育力の向上を図るため、いつでもどこでも見ることができるウェブ漫画を作成し、子育て支援に関する情報発信を行った。	職員	0.80 人	
						実績	—	57.3 %	達成率												88.2 %

令和元年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs 主要なゴール番号	SDGs ゴール番号	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)		R1年度				R3年度予算要求に向けた施策の方向性		
							指標名等	現状値(基準値)	H30年度	R1年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由		局施策評価	局施策評価の理由及び課題
I-3-(1)-① 多様な学習機会や学習情報、学びの場の提供	5	④	③ ④ ⑪ ⑰	生涯学習活動促進事業	生涯学習課	各市民センター等で、地域課題や現代的課題等の解決を目指す講座、心と体の健康づくりを目指す講座など幅広い分野にわたる講座を実施する。また、それぞれの地域の特色を生かし、家庭・地域・学校が連携して、子どもたちに様々な体験活動や世代間交流の機会を提供し、地域ぐるみで子どもを見守り育てる意識を高め、地域全体で子どもの健全育成に取り組む機運を醸成する。	生涯学習市民講座参加者数	目標	100,000人	110,000人	110,000人(R2年度)	13,627	12,056	15,119	6,900	課長	0.10人	順調	生涯学習市民講座参加者数の成果指標が目標値を達成したため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 生涯学習市民講座参加者数の成果指標が100%を超えており、また、生涯学習に関する満足度についても98.3%と高い達成率であるため「順調」と判断。 【課題】 生涯学習市民講座については、地域課題や現代的課題(社会的課題)等の解決を目指す講座を増やす必要がある。生涯学習推進コーディネーター配置事業については、市民センター館長にコーディネーターの必要性や人材の見つけ方について、館長に周知していく。	地域に根付いた活動を実施するため、地域の実情を反映し、地域課題の解決につながる講座を増やしていく。 生涯学習推進コーディネーターについては、研修会や市民センターの訪問時にコーディネーターの必要性や人材の見つけ方について、館長に周知していく。 また、コーディネーターの魅力高めるため、資質向上を図る研修等を実施する。
								実績	130,619人	124,765人												
6	④	④ ⑪ ⑰	生涯学習推進コーディネーター配置事業	生涯学習課	多様化・高度化する市民の学習要求に応え、生涯学習事業の充実及び学習の促進を目的に、全市民センターに生涯学習推進コーディネーターを配置する。	生涯学習推進コーディネーターの配置割合	目標	75%	80%	85%(R2年度)	9,133	5,515	6,644	3,650	課長	0.10人	やや遅れ	生涯学習推進コーディネーターの配置事業については、市民センター館長にコーディネーターの必要性や人材の見つけ方について研修を行い、新たな人材発掘に取組んだ。しかしながら、コーディネーターから市民センターの職員になる等、辞めた方が新規登録者を上回り、目標を達成しなかったため「やや遅れ」と判断。	順調	【評価理由】 生涯学習市民講座参加者数の成果指標が100%を超えており、また、生涯学習に関する満足度についても98.3%と高い達成率であるため「順調」と判断。 【課題】 生涯学習市民講座については、地域課題や現代的課題(社会的課題)等の解決を目指す講座を増やす必要がある。生涯学習推進コーディネーター配置事業については、市民センター館長にコーディネーターの必要性や人材の見つけ方について、館長に周知していく。 また、コーディネーターの魅力高めるため、資質向上を図る研修等を行う必要がある。	住民主体の地域づくりを促進するため、生涯学習市民講座などにおいて地域課題解決の講座、学んだ成果を活かす講座、地域交流を目指す講座を充実させていく。 また、地域活動をリードする人材の発掘、育成、活動を図るため、学習者の活動意向を把握し、活動につなげるための仕組みづくりなど支援を行う。	
							実績	51.5%	45.4%													95%
I-3-(2)-① 地域活動をリードする人材の育成	7	④	④ ⑪ ⑰	北九州市民カレッジ事業	管理運営課	市民の多様な学習ニーズに対応した生涯学習機会を提供し、自己実現の促進および「循環型生涯学習社会」を担う人材の育成を図る。北九州市民カレッジの講座は、生涯学習総合センター主催コース(まちづくり・人材育成系、総合・教養系の2コース)と高等教育機関提携コースを前期・後期の2期で実施。	受講者数	目標	1,440人	1,470人	1,500人(R2年度)	5,374	4,076	4,329	20,700	課長	0.30人	順調	高等教育機関提携コースの講座の減少により、講座数が目標を若干下回ったものの、受講者数は目標値を大幅に超えており、受講者の満足度も継続的に高い数字を達成していることから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 市政モニターアンケートの結果から、地域活動をリードする人材の増加について、実感を伴う段階まで達成していないことが分かった。 一方、地域活動をリードする人材発掘につながる生涯学習市民講座は目標を達成していることから「順調」と判断。 【課題】 生涯学習市民講座などにおいて、地域課題や現代的課題(社会的課題)等の解決を目指す講座の開催を増やす必要があり、講座の受講生の中から新たに、地域活動をリードする人材を発掘していく必要がある。 また、上記の講座が市民センターで多く開催されるように、引き続き市民センター館長等研修を実施する。	住民主体の地域づくりを促進するため、生涯学習市民講座などにおいて地域課題解決の講座、学んだ成果を活かす講座、地域交流を目指す講座を充実させていく。 また、地域活動をリードする人材の発掘、育成、活動を図るため、学習者の活動意向を把握し、活動につなげるための仕組みづくりなど支援を行う。
								実績	1,682人	1,627人												
8	④	③ ④ ⑪ ⑰	生涯学習活動促進事業	生涯学習課	各市民センター等で、地域課題や現代的課題等の解決を目指す講座、心と体の健康づくりを目指す講座など幅広い分野にわたる講座を実施する。また、それぞれの地域の特色を生かし、家庭・地域・学校が連携して、子どもたちに様々な体験活動や世代間交流の機会を提供し、地域ぐるみで子どもを見守り育てる意識を高め、地域全体で子どもの健全育成に取り組む機運を醸成する。	生涯学習市民講座参加者数	目標	100,000人	110,000人	110,000人(R2年度)	13,627	12,056	15,119	6,900	課長	0.10人	順調	生涯学習市民講座参加者数の成果指標が目標値を達成したため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 生涯学習市民講座参加者数の成果指標が100%を超えており、また、生涯学習に関する満足度についても98.3%と高い達成率であるため「順調」と判断。 【課題】 生涯学習市民講座については、地域課題や現代的課題(社会的課題)等の解決を目指す講座を増やす必要がある。生涯学習推進コーディネーター配置事業については、市民センター館長にコーディネーターの必要性や人材の見つけ方について、館長に周知していく。 また、コーディネーターの魅力高めるため、資質向上を図る研修等を行う必要がある。	住民主体の地域づくりを促進するため、生涯学習市民講座などにおいて地域課題解決の講座、学んだ成果を活かす講座、地域交流を目指す講座を充実させていく。 また、地域活動をリードする人材の発掘、育成、活動を図るため、学習者の活動意向を把握し、活動につなげるための仕組みづくりなど支援を行う。	
							実績	130,619人	124,765人													90%以上(R2年度)

令和元年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs 主要 番号	SDGs 目標 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)			R1年度				R3年度予算要求に向けた 施策の方向性
							指標名等	現状値 (基準値)	H30年度	R1年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	
	9	④	④ ⑪ ⑰	地域課題解決のための人材活用支援事業	生涯学習課	地域が主体的に地域課題を解決することができるよう、地域人材の発掘～育成～活動までを体系的に支援し、地域力アップにつながる仕組みをつくる。学んだ成果を地域に活かす講座の開催、地域活動をリードする人材育成事業(市民センター館長等研修など)及び多様な機関との連携強化を実施する。	「地域活動をリードする人材やボランティア活動に取り組む人材が増加していると感じる」に肯定的な回答をした割合	目標	56 %	58 %	60%以上 (R2年度)	670	253	650	5,400	課長	0.10 人	やや遅れ	人材マッチングモデル事業では、新たに年長者大学校穴生学舎と連携した取り組みを実施することができた。また、引き続き、市民センター館長等研修を実施することで地域活動をリードする人材育成に取り組んだ。しかしながら、市政モニターアンケート結果では、目標達成しなかった。したがって、「やや遅れ」と判断。		
						実績	32.1 %	30.6 %						係長	0.20 人						
						達成率	57.3 %	52.8 %						職員	0.30 人						
I-3-(2)- ② 地域を支えるボランティアの育成	10	④	④ ⑰	NPO・市民活動促進事業	市民活動推進課	市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発等を実施する。	新規設立NPO法人数(累計)	目標	105 法人	120 法人	135法人 (R2年度)	20,750	18,314	18,324	19,725	課長	0.15 人	順調	【評価理由】 新規設立NPO法人数は目標を概ね達成していること、サポートセンター利用者は目標を達成していることから「順調」と判断。 【課題】 市民活動のさらなる促進のため、新たな活動参加者の掘り起こしとともに、活発に活動する市民活動団体を育成していくことが必要である。	順調	市民活動を促進する講座の実施や情報提供の充実を図っていく。
						実績	99 法人	116 法人													
						サポートセンター利用者数	目標	25,000 人	25,000 人	25,000人 (毎年度)					職員	2.00 人					
							実績	28,683 人	29,293 人												
							達成率	114.7 %	117.2 %												
II-1-(1)- ② 市民の消費生活の安定と向上	11	④	④	消費者啓発の推進	消費生活センター	悪質化・巧妙化する消費者被害を未然に防止するため、法律相談会や消費者啓発・教育講座等、消費者自身が危機回避や被害にあった場合の適切な対処法を身に付けるための各種事業を実施するなど、啓発の推進や支援を行う。	消費生活センターの認知度	目標	90 %	90 %	90%以上 (毎年度)	17,130	12,990	14,444	8,075	課長	0.05 人	順調	消費生活センターの認知度及び、消費生活センター等に相談又は相談を勧める市民の割合とともに目標値を上回り、高い数値を維持しているため「順調」と判断。	順調	今後も効果的・効率的な啓発活動に努め、相談窓口の周知とともに、賢い消費者の育成を図っていく。
						実績	92.9 %	94.1 %													
							達成率	103.2 %	104.6 %												
							目標	90 %	90 %	90%以上 (毎年度)					職員	0.60 人					
							実績	95.1 %	94.5 %												
							達成率	105.7 %	105.0 %												

令和元年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs 主なゴール番号	SDGs ゴール番号	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)		R1年度				R3年度予算要求に向けた施策の方向性
							指標名等	現状値(基準値)	H30年度	R1年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	
II-1-(3)-① 「北九州市安全・安心条例」の制定と安全・安心に関わる施策の推進	12	⑪	⑪	日本トップクラスの安全・安心なまちづくり関連事業	安全・安心推進課	警察、関係団体等と連携し、市民等の防犯意識の向上や自主防犯活動の活性化、安全・安心な環境の整備などに取り組み、日本トップクラスの安全・安心なまちづくりを推進する。	防犯パトロール活動への参加者数 ※中期目標改訂(R2年度目標設定時)	14,170人(H27年度)	目標 18,000人 実績 27,875人 達成率 154.9%	20,000人 38,225人 191.1%	北九州市安全・安心条例行動計画(第2次)にて決定	9,527	6,332	15,698	15,900	課長 0.10人 係長 0.35人	大変順調	防犯パトロール活動への参加者が10,350人増と大幅に増加し、体感治安も増加しているため「大変順調」と判断。		
						市民が感じる治安状況(体感治安) ※中期目標改訂(R2年度目標設定時)	73.7%(H27年度)	目標 前年度(79.0%)比増 実績 85.2% 達成率 107.8%	前年度比増 86.1% 101.1%	北九州市安全・安心条例行動計画(第2次)にて決定					職員 1.50人					
							子どもや女性の犯罪被害を防止するため、子ども自身や子どもを見守る保護者、女性を対象とした安全セミナー等を開催し、防犯意識や知識の向上を図る。	「安全セミナー」「地域安全マップづくり」延べ実施校 ※中期目標改訂(R2年度目標設定時)	35校(H25年度)	目標 105校 実績 118校 達成率 112.4%	125校 136校 108.8%	155校(R2年度)	4,023	5,943	2,790	15,900	課長 0.10人 係長 0.35人	順調	「安全セミナー」や「地域安全マップづくり」の延べ実施校において目標を達成し、また、性犯罪認知件数が昨年よりも減少したことから「順調」と判断。	
	13	⑪	⑪	子どもと女性の犯罪被害防止対策事業	安全・安心推進課		性犯罪認知件数	104件(H25年)	目標 前年度(75件)減 実績 82件 達成率 90.7%	前年度減 74件 109.8%	件数減(毎年)					職員 1.50人				
	14	⑪	⑪	安全・安心総合相談ダイヤル事業	安全・安心相談センター	市民生活の身近な安全・安心に関する相談を受け付ける「安全・安心総合相談ダイヤル」を円滑に運用し、市民の相談機会の充実と不安感解消を図る。	安全・安心総合相談ダイヤルの認知度	22%(H27年度)	目標 前年度(28.8%)比増 実績 27.7% 達成率 96.2%	前年度比増 33.6% 121.3%	前年度比増(毎年度)	18,855	16,110	19,191	15,900	課長 0.10人 係長 0.35人 職員 1.50人	大変順調	安全・安心総合相談ダイヤルについて、認知度が増加し、また円滑に運営出来ており、「大変順調」と判断。		

令和元年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善														
施策番号・施策名	No.	SDGs 主要な目標番号	SDGs 目標番号	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)		R1年度				R3年度予算要求に向けた施策の方向性									
							指標名等	現状値(基準値)	H30年度	R1年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由		局施策評価	局施策評価の理由及び課題							
II-1-(3)-② 防犯活動の強化	15	⑪	⑪	地域防犯対策事業	安全・安心推進課	北九州市安全・安心条例では、「市民等は安全・安心に関する意識を自ら高め、行動すること」「市及び市民等は相互に連携を深め、防犯活動を協力して推進すること」と定められている。この事業では、市民の防犯意識を高め、地域住民の自主防犯活動を促進し、安全・安心を実感できるまちの実現を図る。	街頭犯罪件数	6,612件(H25年)	目標	前年(3,467件)比減	前年比減	前年比減	28,725	28,298	29,481	15,900	課長	0.10	人	順調	「ながら見守り」活動の推進や市ホームページでの広報、福岡県警との合同のキャンペーンを実施したことにより、市民の防犯意識の向上に貢献している。	【評価理由】 刑法犯認知件数や市民が感じる治安状況が目標を達成していることから「順調」と判断。	【課題】 様々な取り組みにより、犯罪件数や体感治安にその成果が表れてきているが、さらなる整備事業により防犯活動強化を推進していく必要がある。	引き続き、防犯カメラや防犯灯の整備による防犯活動強化を図るとともに、設置後の適正な維持管理・運用に努める					
								実績	2,727件	2,498件	達成率														121.3%	108.4%	係長	0.35	人
								目標	前年度(79.0%)比増	90%	実績														85.2%	86.1%			
16	⑫	⑫	防犯灯設置事業	安全・安心都市整備課	夜間における犯罪の発生を未然に防止し、公衆の通行の安全を図るため地域と市が協力しながら、防犯灯を設置。防犯灯の設置にあたっては、LED防犯灯の設置促進を図り、町内会等の地域の防犯灯の設置のため費用の一部を助成し、明るく安心して生活できるまちづくりを推進。	刑法犯認知件数	9,682件(H27年)	目標	前年(7,570件)比減	8,000件	北九州市安全・安心条例行動計画(第2次)にて決定	111,629	37,951	55,933	3,435	課長	0.04	人	順調	市内防犯灯の設置(LED化)が8割以上進み、刑法犯認知件数や市民が感じる治安状況が概ね目標を達成していることから「順調」と判断。									
							実績	6,504件	6,127件	達成率														114.1%	123.4%	係長	0.17	人	
							目標	前年度(79.0%)比増	90%	実績														85.2%	86.1%				職員
17	⑬	⑬	通学路防犯灯事業	安全・安心都市整備課	通学路において、市によるLED防犯灯の設置を行い、通学路の夜間の安全確保に取り組む。	刑法犯認知件数	9,682件(H27年)	目標	前年(7,570件)比減	8,000件	北九州市安全・安心条例行動計画(第2次)にて決定	9,500	6,586	7,685	3,435	課長	0.04	人	順調	刑法犯認知件数や市民が感じる治安状況が概ね目標を達成していることから「順調」と判断。									
							実績	6,504件	6,127件	達成率														114.1%	123.4%	係長	0.17	人	
							目標	前年度(79.0%)比増	90%	実績														85.2%	86.1%				職員

令和元年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs 主なゴール番号	SDGs ゴール番号	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)		R1年度				R3年度予算要求に向けた施策の方向性			
							指標名等	現状値(基準値)	H30年度	R1年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由		局施策評価	局施策評価の理由及び課題	
II-1-(3)-③ 暴力団追放運動の推進	18	⑫	⑫	防犯カメラ事業	安全・安心都市整備課	暴力団犯罪をはじめ街頭犯罪を抑制し、市民生活等の安全・安心を確保するため、人が多く集まる繁華街や幹線道路に既に設置している防犯カメラの適正な維持管理を行う。 更に、近年開発が進む駅周辺などに新たに防犯カメラを設置し、適切な維持管理を行う。	市民が感じる治安状況(体感治安) ※中期目標改訂(R2年度目標設定時)	目標	前年度(79.0%)比増	90%	北九州市安全・安心条例行動計画(第2次)にて決定	45,098	41,638	44,010	3,435	課長	0.04	人	順調	防犯カメラの適正な維持管理のもと、そのデータは有効に活用されており、刑法犯認知件数や市民が感じる治安状況が概ね目標を達成していることから「順調」と判断。	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	R3年度予算要求に向けた施策の方向性
								実績	85.2%	86.1%													
	19	⑫	⑫	防犯カメラ設置補助事業	安全・安心都市整備課	安全・安心条例の施行を機に、地域団体や事業者が犯罪抑止を目的として公共空間を撮影する防犯カメラを設置すること、安全・安心な環境の構築に向けたさらなる取り組みを推進する。	刑法犯認知件数 ※中期目標改訂(R2年度目標設定時)	目標	前年(7,570件)比減	8,000件	北九州市安全・安心条例行動計画(第2次)にて決定	13,800	12,326	16,051	3,435	課長	0.04	人	順調	申請取り下げ等に伴い、最終的な設置台数は目標を超えていないが、刑法犯認知件数や市民が感じる治安状況が概ね目標を達成していることから「順調」と判断。	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	R3年度予算要求に向けた施策の方向性
								実績	6,504件	6,127件													
	20	⑪	⑪	暴力団追放の推進	安全・安心相談センター	社会全体で暴力団を排除する取り組みを推進するため、事業者・市民の暴排意識を高める市民暴力追放総決起大会や暴力追放強調月間による集中的な啓発活動などを実施し、官民一体となって取り組む。	市民が感じる治安状況(体感治安) ※中期目標改訂(R2年度目標設定時)	目標	前年度(79.0%)比増	90%	北九州市安全・安心条例行動計画(第2次)にて決定	12,220	7,364	8,351	12,850	課長	0.40	人	順調	暴排対策に対する市民評価の割合については対前年比増となっており、また企業における暴力団排除条項の規定割合も概ね目標値を達成しており、「順調」と判断。	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	R3年度予算要求に向けた施策の方向性
								実績	79.0%	80.5%													
21	⑪	⑪	民事介入暴力相談事業	安全・安心相談センター	市民生活への暴力団等の介入を排除し、安全・安心なまちづくりを図るため、民事介入暴力相談を実施。	企業における暴力団排除条項の規定割合 ※中期目標改訂(R2年度目標設定時)	目標	前年度(71.9%)比増	前年度比増	前年度比増(毎年度)	21,394	20,150	20,197	4,300	課長	0.20	人	順調	暴排対策に対する市民評価の割合については対前年比増となっており、また企業における暴力団排除条項の規定割合も概ね目標値を達成しており、「順調」と判断。	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	R3年度予算要求に向けた施策の方向性	
							実績	79.0%	80.5%														達成率
21	⑪	⑪	民事介入暴力相談事業	安全・安心相談センター	企業における暴力団排除条項の規定割合 ※中期目標改訂(R2年度目標設定時)	目標	前年度(71.9%)比増	前年度比増	前年度比増(毎年度)	21,394	20,150	20,197	4,300	課長	0.20	人	順調	暴排対策に対する市民評価の割合については対前年比増となっており、また企業における暴力団排除条項の規定割合も概ね目標値を達成しており、「順調」と判断。	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	R3年度予算要求に向けた施策の方向性		
						実績	79.0%	80.5%														達成率	109.9%

令和元年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs 主要 番号	SDGs 目標 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)			R1年度				R3年度予算要求に向けた 施策の方向性	
							指標名等	現状値 (基準値)	H30年度	R1年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の理由及び課題
II-1-(3)- ④ 交通安全の推進	22	③	③	交通安全推進事業	安全・安心都市整備課	第9次北九州市交通安全計画に基づき、重点項目について啓発を実施。生涯にわたる交通安全教育及び効果的な広報啓発活動により、市民に広く交通安全思想を普及し、交通事故防止を図るもの。	交通事故の発生件数(警察統計のため暦年でカウント)	目標	前年(7,001件)比減	前年比減	7,300件以下(R2年)	15,245	13,740	3,891	9,800	課長	0.20	大変順調	小学校等での交通安全教室参加者数が目標を達成しており(目標:35,000人、実績:36,299人)、交通事故発生件数が1,107件減少、死亡者数が9人減少しているため、「大変順調」と判断。	順調	【評価理由】 交通事故発生件数、自転車関連交通事故の発生件数は、着実に減少しているため「順調」と判断。 【課題】 効果的な交通事故防止事業となるよう、対象を絞って効果的に事業を実施する必要がある。また、交通安全教育や啓発活動を積極的に行うことにより、交通ルール、マナーの徹底を図る必要がある。	引き続き交通事故防止について、子どもから高齢者まで幅広く啓発を行う。
								実績	6,649件	5,542件						職員	0.60					
								達成率	105.0%	116.6%						係長	0.30					
	23	③	③	交通安全センター管理運営	安全・安心都市整備課	北九州市立交通安全センターを管理するとともに、交通安全教室等を開催し、自転車の安全運転や、交通ルール・マナーの徹底を図る。	交通事故の発生件数(警察統計のため暦年でカウント)	目標	前年(7,001件)比減	前年比減	7,300件以下(R2年)	27,767	27,767	27,572	3,650	課長	0.10	順調	交通公園の入場者数(目標:210,000人、実績:221,740人)、安全教室の開催数(目標:508回、実績:549回)が目標を上回っている。また、交通事故発生件数、自転車関連交通事故発生件数ともに前年比較で減少したため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 犯罪認知件数の減少とともに、市民が感じる治安状況も前年度比で改善しているため、「順調」と判断。 【課題】 体感治安のさらなる改善のため引き続き安全・安心に関する情報や取組を市内外に発信していくことが求められている。また、防犯灯をはじめとしたインフラ整備事業により防犯強化が必要。	犯罪認知件数の減少に体感治安が伴うよう、引き続き安全・安心に関する情報や取組を効果的に市内外に発信していく。
								実績	6,649件	5,542件						職員	0.20					
								達成率	105.0%	116.6%						係長	0.10					
II-1-(3)- ⑤ 非行や犯罪を生まない地域づくり	24	⑪	⑪	地域防犯対策事業	安全・安心推進課	北九州市安全・安心条例では、「市民等は安全・安心に関する意識を自ら高め、行動すること」「市及び市民等は相互に連携を深め、防犯活動を協力して推進すること」と定められている。この事業では、市民の防犯意識を高め、地域住民の自主防犯活動を促進し、安全・安心を実感できるまちの実現を図る。	街頭犯罪件数	目標	前年(3,467件)比減	前年比減	前年比減	28,725	28,298	29,481	15,900	課長	0.10	順調	「ながら見守り」や「窓から見守り」活動の推進や、福岡県警との合同のキャンペーンを実施したことにより、市民の防犯意識の向上に貢献している。街頭犯罪認知件数の減少や体感治安が向上していることから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 犯罪認知件数の減少に体感治安が伴うよう、引き続き安全・安心に関する情報や取組を効果的に市内外に発信していく。	
								実績	2,727件	2,498件						職員	1.50					
								達成率	121.3%	108.4%						係長	0.35					
	25	⑫	⑫	戦時資料展示コーナー管理運営事業	地域振興課	市民から寄贈があった戦時下の資料を保管、展示することにより、北九州市立埋蔵文化財センター内に開設した戦時資料展示コーナーにおいて、戦争がもたらした惨禍と平和の尊さを多くの市民に理解してもらう。	戦時資料展示コーナー見学者数	目標	前年度(79.0%)比増	90%	4,000人(毎年度)	1,329	1,317	1,278	1,220	課長	0.03	順調	戦時資料展示コーナー見学者数は目標を下回ったが、休館期間が1ヶ月ほどあり、概ね目標を達成していることから「順調」と判断。 【課題】 戦時資料展示コーナー案内チラシを更新し、入館者数の増加を図っていく必要がある。	順調	戦争がもたらした惨禍と平和の尊さを多くの市民に理解してもらうため、広報活動を通じて、戦時資料展示コーナーの周知に一層力を入れていく。広報活動を通じて、見学者数の増加に繋げていく。	
								実績	85.2%	86.1%						職員	0.05					
								達成率	107.8%	95.7%						職員	0.05					
							市民が感じる治安状況(体感治安) ※中期目標改訂(R2年度目標設定時)	目標	73.7%(H22年度)		北九州市安全・安心条例行動計画(第2次)にて決定											

令和元年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs 主なゴール番号	SDGs ゴール番号	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)		R1年度				R3年度予算要求に向けた施策の方向性			
							指標名等	現状値(基準値)	H30年度	R1年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由		局施策評価	局施策評価の理由及び課題	
Ⅲ-1-(1)-④ 市民のモラル・マナーの向上	26	⑪	⑪	モラル・マナーアップ関連条例推進事業	安全・安心都市整備課	条例や基本計画に基づき下記事業に取り組む。 ・小倉・黒崎地区(迷惑行為防止重点地区)での巡視活動(過料の適用) ・地域が実施する迷惑行為防止活動に対する支援・小学生を対象としたモラル・マナーアップ教育・モラル・マナーアップに関する広報啓発	迷惑行為防止に係る地域活動団体の増加	目標	前年度(94団体)比増	前年度比増	前年度比増(毎年度)	19,509	18,158	23,519	6,150	課長	0.10	人	順調	迷惑行為防止に係る地域活動団体数増加。路上喫煙率については、小倉地区、黒崎地区を平均すると、減少したため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 迷惑行為防止に係る地域活動団体数は前年度より増加し、活動の裾野が広がっている。また、路上喫煙率も減少しているため、「順調」と判断。 【課題】 円滑な巡視活動や迷惑行為防止に係る活動の裾野の拡大のための広報や周知が必要。	今年度から始まる基本計画(第3次基本計画)に基づき、新たな目標を定め、達成を目指す。
								実績	98 団体	100 団体													
Ⅲ-2-(1)-② 地域における伝統文化の発掘・継承	27	⑪	⑪	文化財保存補助	文化企画課	伝統文化の継承者や保存団体の活動を育成・支援し、市内の伝統文化を発掘し、次世代に継承していく。	指定無形民俗文化財保存支援団体数	目標	17 団体	17 団体	17団体(毎年度)	1,082	1,094	1,122	11,050	課長	0.20	人	順調	保存団体への周知と適切な協議を行い、事業を進めることができたため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 文化財調査が順調に進んでおり、補助制度についても文化財保存団体への周知と適切な協議を進めることができたため「順調」と判断。 【課題】 指定無形民俗文化財の保護団体の自主的な申請に対して補助を行う制度については、引き続き保護団体に対して周知を行っていく。	伝統文化の発掘や継承のため、今後も引き続き、文化財保護団体の活動の強化に資する補助制度を継続していく。
								実績	17 団体	17 団体													

令和元年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs 主なゴール番号	SDGs ゴール番号	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)		事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	R3年度予算要求に向けた施策の方向性
							指標名等	現状値(基準値)	H30年度	R1年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)					
Ⅲ-2-(2)-① 発信力の高い文化芸術の振興	28	④	④⑪	芸術文化活性化事業	文化企画課	<p>【劇場・自主事業】エンターテインメントから芸術性の高い作品まで舞台芸術全般を網羅し、幅広い年代層をターゲットに公演を行う。また、北九州芸術劇場オリジナルの演劇作品等を作成し、公演を実施。</p> <p>【響ホール・自主事業】室内楽専用ホールの特性を生かした質の高いコンサートや響ホールを拠点として地元演奏家を積極的に育てるコンサートを行う。また、響ホールからの発信を意識した、オリジナリティのある演奏会を実施。</p>	北九州芸術劇場・自主事業入場率	95% (H21年度)	目標 80 % 実績 88 % 達成率 110.0 %	R1年度 87 % R2年度 90 % R3年度 103.4 %	87% (R5年度)	108,568	83,683	95,130	3,550	課長 0.05 人 係長 0.17 人 職員 0.17 人	順調	<p>北九州芸術劇場においては、劇場オリジナル作品や話題性のある良質な作品等の幅広い年代層を対象とした公演が提供され、入場率が目標値を上回った。</p> <p>響ホール事業においても、国内外で活躍する著名な演奏家による公演や子どもも楽しめるコンサート、演劇とクラシック音楽がコラボレーションした公演等、幅広いラインナップを揃え、目標率を大きく上回る入場率となった。</p> <p>以上より、本市の文化振興に寄与したことから、「順調」と判断。</p>	<p>【評価理由】北九州芸術劇場、響ホールは自主事業の実施により、文化芸術を発信し目標を達成した。北九州国際音楽祭は、高い満足度を維持している。</p> <p>また、映像制作誘致強化関連事業について、高い認知度を維持し続けていること、松永文庫については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時閉館を除けば、成果指標も90%以上の達成であることを総合して「順調」と判断。</p>	<p>今後とも発信力が高く、まちの魅力づくりにつながる事業の実施を目指し、事業内容を検討しながら、事業規模を維持していく。</p> <p>また、映像制作誘致強化関連事業については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を行ったうえで、引き続きアジアを中心とする映画作品の誘致などに積極的に取り組み、「映画の街・北九州」という都市ブランドを国内外に広く発信していく。</p>
	29	④	④⑪	北九州国際音楽祭	文化企画課	<p>地域の音楽文化の向上を図ることを目的に、クラシックコンサートを中心とした音楽祭に助成を行うもの。本音楽祭は、市制25周年を記念して始まり、令和2年度で33回を数え、本市の秋を彩る催し物として定着している。</p>	北九州市国際音楽祭の満足度	83% (H21年度)	目標 85 % 実績 99 % 達成率 116.5 %	R1年度 85 % R2年度 99 % R3年度 116.5 %	85% (R2年度)	40,000	26,085	29,953	1,625	課長 0.05 人 係長 0.06 人 職員 0.06 人	順調	<p>東アジア文化都市2020北九州のブレ事業として、海外オーケストラやアジア出身のショパン・コンクール優勝者等、国内外の一流の演奏家を招き、多くの方に音楽の魅力を届けることができた。</p> <p>加えて、満足度も高い水準を維持しており、本市の文化振興に大きく寄与したことから、「順調」と判断。</p>	<p>【課題】北九州芸術劇場、響ホールでは、高い入場率につながる魅力的な自主事業を発信していく必要がある。また、芸術文化の振興を街のにぎわいづくりにつなげていくことが重要と考える。</p> <p>また、映像制作誘致強化関連事業では、国内外に本市の魅力を発信する作品の誘致のため、より広くロケ地候補の情報を集める必要がある。加えて、新しい生活様式に対応し、衛生班の導入など、より安全に配慮した撮影を行うための対策が必要である。</p> <p>松永文庫については、新しい生活様式への対応のため、同時入場者の制限等様々な対策が必要となる。来場者数だけでなく成果指標の検討、対策経費の増加による運営予算圧迫を避けるため、企画展の規模等を検討する必要がある。</p>	
	30	⑧	⑧⑪	映像製作誘致強化関連事業	文化企画課	<p>映画・テレビドラマ等のロケ地誘致や撮影支援を積極的に行い、本市の知名度と都市イメージの向上を図る。</p> <p>また、活動成果の市民との共有や、「映画の街・北九州」という都市ブランドの発信により、街のにぎわいの創出や市民交流等のまちづくりにつなげる。</p>	地域経済への貢献(直接経済効果)	100,000千円 (H21年度)	目標 500,000千円 実績 187,088千円 達成率 37.4 %	R1年度 150,000千円 (以降毎年度) R2年度 91,540千円 R3年度 61.0 %	150,000千円 (以降毎年度)	46,573	31,650	50,205	47,100	課長 0.40 人 係長 2.00 人 職員 3.00 人	順調	<p>地域経済への貢献については目標値に対する達成率が61%であるものの、撮影支援実績としては過去2番目を記録した。</p> <p>また、市民エキストラ・ボランティア参加人数については、活動指標の目標値には達していないが、これは撮影の規模など作品の性質に左右されるものである。一方、成果指標である認知度は昨年度を上回り、約90%と高い水準に達している。</p> <p>以上の点から「順調」と判断。</p>	<p>【課題】北九州芸術劇場、響ホールでは、高い入場率につながる魅力的な自主事業を発信していく必要がある。また、芸術文化の振興を街のにぎわいづくりにつなげていくことが重要と考える。</p> <p>また、映像制作誘致強化関連事業では、国内外に本市の魅力を発信する作品の誘致のため、より広くロケ地候補の情報を集める必要がある。加えて、新しい生活様式に対応し、衛生班の導入など、より安全に配慮した撮影を行うための対策が必要である。</p> <p>松永文庫については、新しい生活様式への対応のため、同時入場者の制限等様々な対策が必要となる。来場者数だけでなく成果指標の検討、対策経費の増加による運営予算圧迫を避けるため、企画展の規模等を検討する必要がある。</p>	
	31	⑧	⑧⑪	松永文庫企画事業	文化企画課	<p>映画・芸能資料館「松永文庫」における企画展示・イベント等の積極的な開催を通じて、映画文化の振興、「映画の街・北九州」の情報発信に取り組む。</p>	年間来館者数	89,317人 (H26年度)	目標 10 万人 実績 7.8 万人 達成率 78.0 %	R1年度 10 万人 R2年度 8.1 万人 R3年度 81.0 %	10万人 (毎年度)	9,600	7,767	9,813	4,900	課長 0.10 人 係長 0.30 人 職員 0.10 人	順調	<p>企画展回数は目標を達成。来場者数は目標に届かなかったが、2月28日からの臨時休館による開館日数の減少を考慮すると昨年度より順調に推移したため、「順調」と判断。</p>		

令和元年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs 主な ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)		R1年度				R3年度予算要求に向けた 施策の方向性
							指標名等	現状値 (基準値)	H30年度	R1年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業 評価	評価の理由	
Ⅲ-2-(2)- ② 市民の文化芸術活動の促進	32	④	④ ⑪	芸術文化育成員担 金・補助金	文化 企画 課	本市の文化水準の向上 及び地域文化の振興を推 進することを目的とし て、積極的に文化活動を 展開している文化団体等 の事業に対して、助成を 行う。	各種文化事業の実施 ※中期目標改訂 (R2年度目標設定 時)	16事業 (H23年 度)	目標 16 事業 実績 16 事業	15 事業	16事業 (R2年度)	35,350	34,845	41,347	5,825	課長 0.05 人 係長 0.30 人 職員 0.30 人	順調	助成団体数は、前年と同程度 (隔年助成の団体あり)であ り、各団体の事業は予定どおり 実施され、多数の来場があっ た。 この助成制度により、地域・ 市民レベルにおける文化活動を 支える一定の効果があることか ら、事業評価を「順調」と判断。	順調	助成制度は、市民レベルでの 活動を支えるものであり、市の 文化水準の向上や個性ある地域 文化の振興のためにも、今後も 継続して実施する。
	33	④	④ ⑪	北九州市文化振興 基金	文化 企画 課	北九州市の文化水準の 向上と地域文化の振興に 資することを目的として 設置された北九州市文化 振興基金運用果実によ り、市民の行う芸術・文 化活動等に対し助成を行 う。	北九州市文化振興基 金奨励事業の補助件 数	27件 (H21年 度)	目標 25 件 実績 15 件	25 件	25件 (毎年度)	11,681	7,832	13,239	3,825	課長 0.05 人 係長 0.10 人 職員 0.30 人	順調	キャリアアップ育成や新規事 業の開拓の観点から助成対象を 選定することにより、補助件数 は目標を下回ったが、若手アー ティストの支援や、より広い分 野の芸術活動に対し助成を行う ことができたため「順調」と判 断。	順調	助成の内容や必要性を検討し ながら、事業を実施していく。
Ⅲ-2-(2)- ③ 市民が文化芸術に 接する機会の拡大	34	④	④	美術館企画展充実 事業	美術 館普 及課	美術館本館及び分館に おいて、多彩で魅力ある 企画展を開催し、本市の 美術・文化の振興を積極 的に推進する。	美術館の入館者数	245,420人 (H26年度)	目標 230,000 人 実績 198,164 人	230,000 人	240,000人 (R2年度)	112,007	100,566	126,293	36,750	課長 0.25 人 係長 0.65 人 職員 3.65 人	順調	新型コロナウイルス感染症対 策のための臨時休館があり、コ レクション展・企画展ともに入 館者数が目標値に届かなかっ た。しかしながら企画展等の入 館者数は昨年度より増加して おり、総合的に見て「順調」と判 断。	順調	これまで美術館に触れる機会 の少なかった児童を対象とした 「ミュージアム・ツアー」事業 と連携し、来館者の年齢層や個 人から家族への来館単位の変化 に合わせた企画展を研究し、より 効果的な広報PRを行うなど、来 館者の増加につなげたい。
	35	④	④	博物館企画展・特 別展充実事業	自然 史・ 歴史 博 物 館 普 及課	企画展・特別展は、特 定のテーマを設けて自然 史や歴史に関する展示を 行うことによって、市民 が楽しく学べる場を提供 し、本市の学術文化の発 展を図るもの。	博物館総入館者数	369,711人 (H24年度)	目標 450,000 人 実績 484,016 人	450,000 人	450,000人 (毎年度)	49,922	45,933	40,361	74,600	課長 1.40 人 係長 1.80 人 職員 5.40 人	順調	特別展・企画展については、 専門的な内容を分かりやすく解 説するなど、楽しんで観覧して 頂けるよう工夫を凝らして企画 したことが、入館者に受け入れ られ、目標値を上回った。更 には平成30年7月に、文化庁補助事 業として採択された「東田地区 ミュージアムパーク創造事業」 の中核館として、様々な関連イ ベントを企画・実施すること により、集客の増加を図ったた め、「順調」と判断。	順調	また、博物館については、開 館20周年記念に向けて、施設の 老朽化に伴う施設整備とのバラ ンスを考慮しつつ、集客増につ ながるより効果的な広報PRや魅 力的な企画展・特別展の開催 等、ソフト面での充実を工夫し て、事業展開していく。 さらには、新型コロナウイル スの感染予防対策をしっかりと 講じ、来館者が安全・安心に観 覧できるよう努める。

令和元年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善											
施策番号・施策名	No.	SDGs 主な目標番号	SDGs 目標番号	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)		事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	R3年度予算要求に向けた施策の方向性						
							指標名等	現状値(基準値)	H30年度	R1年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)						職位	人数				
Ⅲ-2-(2)-④ 文化芸術の担い手の育成	36	④	④	美術鑑賞事業「ミュージアム・ツアー」	美術館普及課	市内の小学3年生を対象に、美術作品の鑑賞体験型のプログラムを作成し、子どもたちに体験してもらおうことでシビックプライドの醸成をはかる。	参加校の割合	14% (H29年度)	目標	100 %	100 %	100% (毎年度)	33,199	32,500	30,883	25,650	課長	0.10	人	順調	対象を市内の全小学3年生に拡大し、学校都合による中止となった1校を除き、ほぼ目標を達成できたため、「順調」と判断。	【評価理由】 目標に達していない事業もあるが、様々な分野の事業を実施している。 また、次世代の文化芸術の担い手となる子どもたちに対し、優れた文化・芸術に触れる機会を提供しており、文化芸術の担い手の育成に寄与していることから「順調」と判断。 【課題】 文化・芸術の担い手を育成していくためには、事業を効果的に周知するとともに、引き続き市民が文化・芸術に触れる機会を確保していくことが必要である。	次世代の担い手の育成は非常に重要な課題であり、シビックプライドの醸成という観点からも、子どもたちや若者が文化・芸術に触れる機会を拡大していくことが必要である。 今後も、学校・地域等における教育普及活動(アウトリーチ)やホール等の文化施設における体験活動等、子どもたちの文化・芸術に接する機会の充実に向けて、事業内容を検討していきたい。 また、引き続き、市民対象の公開事業や地域との連携、現代アートを紹介する場としてのCCA北九州の浸透に努めるとともに、街なかでの合唱コンサート等、市民が合唱に親しむことのできる機会の提供を行ってきたい。			
									実績	99 %	99 %													課長	0.20	人
									達成率	99.0 %	99.0 %													職員	3.00	人
37	④	④	⑪	優れた文化・芸術との“出会い”創造事業	文化企画課	将来の文化・芸術の担い手を育成し、本市の文化振興をさらに進めるとともに、シビックプライドの醸成につなげていくため、若者や子どもたちを中心に優れた文化・芸術との“出会い”の場・機会を創造していく。	教育普及事業への参加者数の増加	2,500人 (H29年度)	目標	3,000 人	3,000 人	3,000人 (R2年度)	6,840	7,543	8,124	8,725	課長	0.15	人	順調	伝統文化等を体験する子ども文化ふれあいフェスタの開催や、放課後児童クラブでの訪問コンサートの実施、東京藝術大学等の一流芸術家による指導等、子どもたちが優れた文化や芸術に触れることのできる機会を創ることができた。 参加者数も目標値を上回り、シビックプライドの醸成や本市の文化振興に寄与したことから、「順調」と判断。					
									実績	5,192 人	3,449 人											課長	0.40	人		
									達成率	173.1 %	115.0 %											職員	0.40	人		
38	④	④	⑪	現代美術センター・CCA北九州支援事業	文化企画課	CCA北九州は、現代美術の世界的な拠点のひとつとなることを目指して活動している研究・学習機関。国内外から集まる現代美術の若手アーティスト等の指導育成、招聘アーティストによる新作発表のための展覧会、国内外の第一線で活躍する学芸員による「キュレーターミーティング」を開催するとともに、CCA北九州のネットワークを活かして、その活動を広く市民に浸透させるための文化講座、子ども向けワークショップなどの事業を行っている。 これら事業を実施しているCCA北九州を支援するもの。	フェロシッププログラムの受講者数	6人 (H23年度)	目標	5 人	5 人	5人 (R2年度)	39,000	38,897	39,958	8,150	課長	0.10	人	順調	CCA北九州のメイン事業であるフェロシッププログラムでは、本人辞退もあり受講生は目標値を下回ったが、プログラム自体は予定どおり成果を達成した。 市民対象の公開事業については、新型コロナウイルス感染症の影響で一部公開中止を余儀なくされたこともあり参加者数は目標に届かなかったが、それ以外は地域住民を対象にした講座を実施するなど、全体的に成果を得られた。 以上のことから、若手アーティストの指導育成や、市民への浸透に一定の効果があったことから、「順調」と判断。					
							実績		5 人	3 人	課長											0.70	人			
							達成率		100.0 %	60.0 %	職員											0.00	人			
						CCA北九州事業参加者人数	2,122人 (H23年度)	目標	1,800 人	1,800 人	1,800人 (R2年度)															
						実績		1,847 人	1,133 人																	
						達成率		102.6 %	62.9 %																	

令和元年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs 主なゴール番号	SDGs ゴール番号	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)			R1年度				R3年度予算要求に向けた施策の方向性	
							指標名等	現状値(基準値)	H30年度	R1年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価		局施策評価の理由及び課題
39	④	④	④	子どもノンフィクション文学賞	文学館	「ノンフィクション」というジャンルの作品を書くことで、子どもたちが人間や社会への関心をもつ契機となり、思考能力や人間としての成長を促すことを目的に、全国の小中学生を対象に創設した文学賞。	応募総数	目標	1,000 件	1,000 件	1,000件(R2年度)	10,802	8,164	9,110	5,400	課長	0.10 人	順調	全国紙の学生新聞とタイアップした広報などにより、全国の小中学生から応募があった。応募総数は、昨年度を若干下回ったものの、応募作品の内容については、選考委員から高い評価をいただいていることから「順調」と判断。			
								実績	744 件	684 件						係長	0.20 人					
								達成率	74.4 %	68.4 %						職員	0.30 人					
40	④	④	④	林芙美子文学賞	文学館	「放浪記」、「浮雲」などの作品で知られ、特に短編の名手として評価の高い林芙美子の名を冠する文学賞。多くの文学者、作家を輩出した北九州市の豊かな文学的土壌を全国に発信するとともに、これから文壇デビューを目指す新たな文学の才能を発掘することを目的に実施するもの。	「林芙美子文学賞」作品応募数	目標	500 件	500 件	500件(R2年度)	12,277	7,934	9,448	4,550	課長	0.20 人	順調	作品応募数は目標に至らなかったが、作家として書き続けていく力量を持った書き手に絞り込まれ、選考委員から一定の評価をいただいていることから「順調」と判断。			
								実績	392 件	384 件						係長	0.00 人					
								達成率	78.4 %	76.8 %						職員	0.30 人					
41	④	④	⑪	「合唱の街づくり」推進事業	文化企画課	市民の歌声があふれる「合唱の街・北九州」の実現に向けて、子どもたちからシニア世代まで幅広い年代の多くの市民が、合唱する側や聴いて楽しむ側として参加するまちづくりを進めていく。	合唱関連事業における歌い手としての参加者 ※中期目標改訂(R2年度目標設定時)	目標	900 人	400 人	250人(R2年度)	5,144	3,876	7,394	7,150	課長	0.10 人	順調	合唱が盛んな本市の素地を活かし、公募型の市民合唱フェスティバルや市内のコーラスグループによる街なかでのコンサートを開催し、これまで合唱との接点がない多くの方に、合唱の良さや本市における合唱の盛んさを体感・認識してもらい、合唱の素晴らしさを伝えることができた。歌い手としての参加者は、目標を少し下回ったものの、本市の文化振興に寄与したことから、「順調」と判断。			
								実績	791 人	359 人						係長	0.30 人					
								達成率	87.9 %	89.8 %						職員	0.40 人					

令和元年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs 主要なゴール番号	SDGs ゴール番号	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)		R1年度	R3年度予算要求に向けた施策の方向性					
							指標名等	現状値(基準値)	H30年度	R1年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)			職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価
Ⅲ-2-(2)-⑤ 文化芸術によるまちづくり	42	⑪	④ ⑧ ⑪	創造都市推進事業	東アジア文化都市推進室	文化芸術の力を活用した「創造都市・北九州」の実現に向け、東アジア文化都市2020北九州を開催する。同時に2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムの推進等に取り組む。	2020年東京大会に向けた文化プログラムの認証件数(累計)	H28年度開始	目標	20 件	20 件	20件(R2年度)	4,000	3,159	4,841	61,100	課長	1.40 人	大変順調	令和2年3月28日に「東アジア文化都市2020北九州」を開催し、文化プログラムの認証件数も増加しているため「大変順調」と判断。 今後は感染症の発生状況を注視するとともに、感染症対策を十分に行った上での事業の実施が必要となる。	順調	【評価理由】 創造都市推進事業では令和2年3月に「東アジア文化都市2020北九州」を開催し、文化プログラムの認証件数も増加している。また、映像制作誘致強化関連事業は高い認知度を維持し続けていることから「順調」と判断。 【課題】 創造都市推進事業では「東アジア文化都市2020北九州」のオープニング事業や開幕式典が新型コロナウイルス感染症の拡大により、延期・中止となっている。 今後は感染症の発生状況を注視するとともに、感染症対策を十分に行った上での事業の実施が必要となる。 また、引き続き「文学の街・北九州」を発信するため、地元商店街や大学生と協力して「北九州文学サロン」を拠点とした取り組みを進めていく。
									実績	27 件	29 件											
									達成率	135.0 %	145.0 %											
									課長	3.00 人												
43	④	④	北九州市漫画ミュージアム普及事業	漫画ミュージアム事務局	北九州市漫画ミュージアムにおいて、常設展示の充実・企画展・イベント等の開催を通じて漫画文化の普及を目指す。	漫画ミュージアム年間入場者数	83,161人(H27年度)	目標	100,000 人	100,000 人	10万人(毎年度)	66,379	58,677	73,939	44,000	課長	1.00 人	順調	来館の動機づけや来館者の満足度向上に資する目標値「ワークショップの開催回数」は、当館オリジナルの豆本制作ワークショップなどの新規企画や、企画展の内容と連動した読み聞かせ会を実施したことなど、担当者の創意工夫により目標を大幅に超えることができた。一方、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により令和2年2月28日から年度末日まで全館閉館したため、3月20日から開催を予定していた企画展を年度中に開会できなかったことなどから、年間入場者数は目標の8割にとどまったため、「順調」と判断。			
								実績	116,930 人	81,502 人												
								達成率	116.9 %	81.5 %												
								課長	3.00 人													
44	⑧	⑧ ⑪	映像製作誘致強化関連事業	文化企画課	映画・テレビドラマ等のロケ地誘致や撮影支援を積極的に行い、本市の知名度と都市イメージの向上を図る。 また、活動成果の市民との共有や、「映画の街・北九州」という都市ブランドの発信により、街のにぎわいの創出や市民交流等のまちづくりにつなげる。	地域経済への貢献(直接経済効果)	100,000千円(H21年度)	目標	500,000 千円	150,000 千円	150,000千円(R1年度以降毎年度)	46,573	31,650	50,205	47,100	課長	0.40 人	順調	地域経済への貢献については目標値に対する達成率が61%であるものの、撮影支援実績としては過去2番目を記録した。 また、市民エキストラ・ボランティア参加人数については、活動指標の目標値には達していないが、これは撮影の規模など作品の性質に左右されるものである。一方、成果指標である認知度は昨年度を上回り、約90%と高い水準に達している。 以上の点から「順調」と判断。			
						実績	187,088 千円	91,540 千円														
						達成率	37.4 %	61.0 %														
						課長	2.00 人															
45	④	④ ⑪	北九州文学サロン管理運営事業	文化企画課	女性俳句の草分けである杉田久女・橋本多佳子などのPR・顕彰に取り組むとともに、「北九州文学サロン」を拠点として、点在する文学的素材やさまざまな文化資源・文化的取組みをつなげる仕組みづくりを行う。	「北九州文学サロン」の来館者数	※中期目標改訂(R2年度目標設定時)	目標	13,000 人	14,000 人	14,000人(毎年度)	11,000	10,690	10,642	6,400	課長	0.10 人	順調	年間を通し、複数のイベントを計画・実施することで、目標値を上回る入館者数を達成することができたため、「順調」と判断。			
						実績	20,210 人	15,057 人														
						達成率	155.5 %	107.6 %														
						課長	0.30 人															

令和元年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善												
施策番号・施策名	No.	SDGs 主なゴール番号	SDGs ゴール番号	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)		R1年度				R3年度予算要求に向けた施策の方向性							
							指標名等	現状値(基準値)	H30年度	R1年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由		局施策評価	局施策評価の理由及び課題					
46	⑧	⑧	⑪	松永文庫企画事業	文化企画課	映画・芸能資料館「松永文庫」における企画展示・イベント等の積極的な開催を通じて、映画文化の振興、「映画の街・北九州」の情報発信に取り組む。	年間来館者数	89,317人(H26年度)	目標 10万人	実績 7.8万人	10万人	10万人	10万人	9,600	7,767	9,813	4,900	課長 0.10人	係長 0.30人	職員 0.10人	順調	企画展回数は目標を達成。来場者数は目標に届かなかったが、2月28日からの臨時休館による閉館日数の減少を考慮すると昨年度より順調に推移したため、「順調」と判断。					
47	④	④	④	松本清張記念館研究センター・普及事業	松本清張記念館事務局	松本清張に関するあらゆる資料を収集・整理し、松本清張の「人と作品」を研究する調査研究・資料収集事業の実施や研究誌を発行する。また、松本清張研究者に奨励金を贈呈する研究奨励事業を実施する。さらに、企画展の開催や講演会、読書感想文コンクールなどの市民文芸活動支援事業を行う。	松本清張記念館の入館者数	58,187人(H22年度)	目標 前年度(47,205人)比増	実績 42,502人	前年度比増	47,828人	前年度比増	14,855	14,319	27,073	23,250	課長 0.50人	係長 1.00人	職員 1.00人	順調	入館者・企画展の満足度とも概ね目標を達成しており、特に、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和2年2月28日から臨時休館を行ったにもかかわらず、入館者数は増加しているため「順調」と判断。					
							企画展入場者の満足度	85%(H22年度)	目標 90%	実績 90%	90%	90%	90%														
48	⑪	④	⑧	⑪	北九州市東田地区ミュージアムパーク創造事業	文化企画課	八幡・東田地区において、いのちのたび博物館を中核として、周辺施設が連携し、地域の活性化やインバウンドの取り込みにつなげるため、面的・一体的に事業を実施するもの。また、2020年に文化クラスターのシンボルイベントとして「ART for SDGs」を開催する。	東田地区における文化関連施設3館の来館者数の増加率(対H29年度比)	約73万人(H29年度)	目標 5%増	実績 4%減	13%減	10%増(R2年度)	6,000	6,000	3,014	10,150	課長 0.10人	係長 0.90人	職員 0.00人	順調	平成30年7月に国から採択を受け、連携企画展やイベントの開催、多言語化対応のホームページの制作などに取り組んだ。東田地区3館の合計来館者数は約63.5万人で、平成29年度比で約13%減少したが、隣接する大規模テーマパークの閉園による修学旅行需要の減少や、新型コロナウイルス感染症拡大による臨時休館の影響をふまえると、最小限の下げ幅にとどまっており、「順調」と判断。					
							東田地区における文化関連施設3館の外国人来館者数の増加率(対H28年度比)	約9千人(H28年度)	目標 10%増	実績 11%減	18%減	30%増(R2年度)															

令和元年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs 主要な ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)		R1年度				R3年度予算要求に向けた 施策の方向性	
							指標名等	現状値 (基準値)	H30年度	R1年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業 評価	評価の理由		局施策 評価
Ⅲ-2-(3)- ① 誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり	49	③	④	市民体育祭	スポーツ振興課	「市民皆スポーツ」をモットーに、スポーツ・レクリエーションの普及振興を図り、市民の健康で明るい市民生活に寄与するため、市内全域で各種大会や行事を開催。	市民体育祭選手参加者数	30,367人(H26年度)	目標 28,000人 実績 29,973人 達成率 107.0%	21,000人 30,139人 143.5%	21,000人(R1年度以降毎年度)	6,354	6,354	7,400	4,650	課長 0.10人 係長 0.20人 職員 0.20人	大変順調	市民体育祭の参加人数が目標を大きく上回っているため、「大変順調」と判断。			
	50	③	④	生涯スポーツ振興事業	スポーツ振興課	生涯スポーツの普及・振興のため、各区においてスポーツ教室、ニュースポーツ体験会などを開催。	各区におけるニュースポーツ及びファミリースポーツ大会の参加人数	12,371人(H26年度)	目標 12,600人 実績 18,163人 達成率 144.2%	15,000人 14,931人 99.5%	15,000人(R1年度以降毎年度)	19,612	18,943	19,103	990	課長 0.01人 係長 0.05人 職員 0.05人	順調	目標より、参加人数は若干減少しているが、新型コロナウイルス感染症の影響等の理由を加味し、「順調」と判断。			
	51	③	④	総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業	スポーツ振興課	地域住民の自主的な運営により、身近な地域で様々なスポーツに親しむことのできる総合型地域スポーツクラブの育成・支援に取り組む。	総合型地域スポーツクラブの会員数	1,800人(H22年度)	目標 3,300人 実績 1,988人 達成率 60.2%	3,600人 2,074人 57.6%	R2年度までに4,000人	3,182	2,660	3,388	2,325	課長 0.05人 係長 0.10人 職員 0.10人	やや遅れ	総合型地域スポーツクラブの会員数が目標に達していないため、「やや遅れ」と判断。			
	52	③	④	⑪	夢・スポーツ振興事業	スポーツ振興課	トップアスリート等の活用により、オリンピック選手など国際、全国大会で活躍する、次世代を担うトップアスリートを育成するとともに、スポーツに対する意欲を醸成する。	選手強化事業参加者数	210人(H26年度)	目標 500人 実績 2,329人 達成率 465.8%	1,000人 1,547人 154.7%	1,000人(毎年度)	9,000	8,033	7,793	6,305	課長 0.02人	大変順調	選手強化事業参加者数、教室・強化講習会等の実施種目数が目標を大きく上回っているため、「大変順調」と判断。	【評価理由】 「誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり」を推進するため、各事業において設定した成果指標の目標を概ね達成しており、「順調」と判断。 【課題】 地域住民が自主的にスポーツの場や機会を創り、地域社会全体のスポーツ環境を形成する、総合型地域スポーツクラブの会員数を増加させる取組を強化する必要がある。	「誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり」を推進するため、市民に身近なスポーツ大会の開催から、プロアスリートの育成、生涯スポーツの普及・振興など、幅広く事業を展開していく。
			教室・強化講習会等の実施	5種目(H26年度)	目標 5種目以上 実績 10種目 達成率 200.0%	5種目以上 10種目 200.0%	11種目以上(毎年度)	係長 0.24人 職員 0.49人													
53	③	④	⑧	⑪	北九州マラソン開催事業	スポーツ振興課	・コース：北九州市役所前～東田地区～戸畑駅前～東港～門司港～北九州国際会議場前 ・種目及び参加人数 マラソン：11,000名、ペアリレーマラソン：150組300名、ファンラン(3km又は5km)：1,000名	マラソン大会開催による経済波及効果	10.5億円(H25年度)	目標 11.5億円 実績 — 達成率 —	単年度目標設定なし 11.5億円(R4年度までに)					課長 1.50人	順調	ランナー目線に立った新たな取り組みを実施することにより、全国マラソンランキング上位を維持しており、ランナーから高い評価をいただいている。また、ボランティアリーダーの養成については、登録者数を伸ばしている。以上より「順調」と判断。			
				インターネットでのマラソン大会全国評価ランキング(参加者7,000人以上の大会を対象)	9位(H28年度)	目標 1位 実績 9位 達成率 —	1位 2位 —	1位(R2年度)	92,157	91,715	89,753	59,750	係長 2.00人								
				ボランティアリーダー登録者数	15人(H30年度)	目標 — 実績 15人 達成率 —	20人 23人 115.0%	50人(R4年度)					職員 3.00人								

令和元年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs 主なゴール番号	SDGs ゴール番号	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)		事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	R3年度予算要求に向けた施策の方向性				
							指標名等	現状値(基準値)	H30年度	R1年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)						職位	人数		
Ⅲ-2-(3)-② スポーツを通じたにぎわいづくり	54	③	④⑪	国際大会・全国大会等スポーツ開催	スポーツ振興課	市内での国際大会等の開催により、「みる」スポーツの機会の拡大を図り、多くの市民のスポーツへの関心の向上及び個々の競技力の向上等につなげる。	国際・全国大会等の開催数	目標	28回	29回	30回 (R2年度)	3,000	3,900	3,600	2,615	課長	0.01人	順調	国際・全国大会等の開催数及び門司港レトロマラソンの参加人数がともに目標を上回っているため、「順調」と判断。	順調	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のキャンプ地誘致活動を継続させるとともに、その他各種国際スポーツ大会の誘致についても引き続き実施していく。 また、ミクニワールドスタジアム北九州を活用するなど、「みる」スポーツの更なる振興を図っていく。			
								実績	40回	35回												達成率	142.9%	120.7%
								目標	3,000人	3,000人												実績	3,029人	3,187人
55	③	④⑪	ギラヴァンツ北九州支援事業	スポーツ振興課	本市のシンボルチームである「ギラヴァンツ北九州」を支援するため、ホームゲーム開催経費や遠征費の一部を補助。	ギラヴァンツ北九州の市民認知度	目標	90%	90%	90% (毎年度)	40,000	40,000	50,000	3,075	課長	0.05人	順調	ギラヴァンツ北九州の市民認知度及び平均入場者数が目標には届かなかったが、平均入場者数は前年に比べて大幅に増加しているため、「順調」と判断。	順調	「ギラヴァンツ北九州」の市民認知度や主催試合の平均入場者数、「スポーツ観戦率」が目標に届いていないことから、今後もミクニワールドスタジアムをはじめとする各スポーツ施設を活用し、「みる」スポーツの更なる振興を図る必要がある。				
							実績	87%	85.8%												達成率	95.9%	95.3%	
							目標	7,000人	7,000人												実績	4,501人	6,049人	達成率
56	③	④⑪	ホームタウン推進事業	スポーツ振興課	本市をホームタウン・準ホームタウンとする、「ギラヴァンツ北九州」や「堺レイザーズ」「福岡ソフトバンクホークス」等の市民観戦事業や、体験教室の開催など、市民がスポーツに親しむきっかけ作りを実施。	スポーツ観戦率	目標	40%	40%	40% (R2年度)	63,450	56,346	51,911	6,575	課長	0.05人	順調	スポーツ観戦率が目標に届かなかったが、本市のシンボルチームであるギラヴァンツ北九州の平均入場者数が所属するJ3リーグでトップであったことや、市民観戦事業の対象にボルックパレット北九州(フットサル)などスポーツ種目を追加し、市民のスポーツ観戦機会を拡充していることから、「順調」と判断。	順調					
							実績	23%	28%												達成率	62.5%	70.0%	
							目標	25%	28%												達成率	62.5%	70.0%	係長

令和元年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs 主要 ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)			R1年度				R3年度予算要求に向けた 施策の方向性
							指標名等	現状値 (基準値)	H30年度	R1年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	
57	③	③	④	大規模国際スポーツ大会等誘致関係事業	国際スポーツ大会推進室	生涯スポーツの振興やまちの賑わい創りに繋がる大規模国際スポーツ大会の試合会場、及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のキャンプ地を本市に誘致すること、並びに誘致前後のスポーツ交流や文化交流等へと繋げることを目的として、誘致プロモーションの展開や官民一体となった「誘致委員会」による積極的な活動を行う。	ラグビーワールドカップ2019及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会におけるキャンプ地誘致数	—	目標 戦略的な誘致プロモーション活動等の実施	実績 3 競技	12 競技	1ヶ国又は1競技以上(R2年度)	171,700	135,404	86,482	71,500	課長 1.00 人	大変 順調	ラグビーワールドカップ2019におけるウェールズ代表のキャンプでは、公開練習でミクスタ初の満員を実現するとともに、ウェールズ国歌合唱のおもてなしが、国内外で数多く取り上げられるなど成功を収めた。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会においては、前年度を上回るキャンプ地誘致数を達成した。国際スポーツ大会についても目標件数を達成していることから「大変順調」と判断。		
						国際スポーツ大会等の開催 ※中期目標改訂(R2年度目標設定時)	目標 3 件	3 件	3件(毎年度)	4件(H27年度)	実績 4 件	4 件	133.3 %	133.3 %	職員 4.00 人						
58	③	③	⑦ ⑧ ⑪	北九州スタジアム維持管理事業	スポーツ振興課	北九州スタジアムは、都心部に人が集い、にぎわいあふれる北九州市の創出を目指し、Jリーグやラグビートップリーグなどの試合、小中高生のサッカー・ラグビー大会、グラウンド・ゴルフ大会、子どもたちへの芝生開放などに加え、まちににぎわいを生み出すイベントの開催など、市民に夢と感動を提供できる施設である。 施設の適切な維持管理・運営を実施することで、「みる」スポーツの機会提供の充実を図り、スポーツを通じたまちのにぎわいを生み出す。	「みる」スポーツの機会提供の充実(グラウンドの年間利用日数)	—	目標 100 日	100 日	100日(毎年度)	103,303	103,303	102,355	2,750	課長 0.05 人	順調	Jリーグやラグビートップリーグなどスポーツの利用に加え、イベントの開催や子供たちの芝生体験、ウォーキング大会など様々な形での利用があり、にぎわい創出に寄与できた。 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、指定管理者が掲げた来場者数については、目標21万人に対して20万5千人と下回ったが、グラウンドの年間利用日数について、目標を達成することができたため「順調」と判断。			
									実績 127 日	121 日						係長 0.09 人					
									達成率 127.0 %	121.0 %						職員 0.17 人					

令和元年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs 主要なゴール番号	SDGs ゴール番号	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)			R1年度				R3年度予算要求に向けた施策の方向性	
							指標名等	現状値(基準値)	H30年度	R1年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価		局施策評価の理由及び課題
Ⅲ-3-(1)-① 市民主体の地域づくりの促進	59	⑪	⑪	地域総括補助金	地域振興課	各地域団体が連携・協力し、まちづくり協議会を中心に地域が一体となった地域づくりを促進するため、これまで市各部署が事業ごとに地域団体に交付していた補助金を可能な限り一本化し、まちづくり協議会に交付する。	地域総括補助金を導入したまちづくり協議会数	130団体 (H26年度)	目標	134 団体	134 団体	137団体 (R5年度)	317,408	284,826	301,855	3,825	課長	0.05 人	順調	補助金の導入団体数は、概ね目標を達成していることから「順調」と判断。	【評価理由】 地域カルテフォローアップ事業は目標を達成し、地域総括補助金、地域づくり活動への参加者の割合も概ね目標を達成しているため、「順調」と判断。	引き続き、地域が一体となった住民主体の地域づくり・まちづくりを促進するため、まちづくり協議会や、地域で様々な取り組みを行う各種地域団体等に対し、「地域総括補助金」の交付や、各種支援事業などの地域ニーズに応じた施策を展開する。
						実績	133 団体	133 団体	達成率	99.3 %	99.3 %	係長	0.10 人	職員	0.30 人							
Ⅲ-3-(1)-② 地域コミュニティ施設の活用・運営	60	⑪	⑪	住民主体の地域づくりの促進	地域振興課	まちづくり協議会を中心としたネットワークを構築し、まちづくり協議会が相互に情報を共有し交流できる場を設けるなど、住民主体の地域づくりを進める。	地域カルテフォローアップ事業を実施したまちづくり協議会の数	—	目標	5 団体	1 団体	住民主体の新たな地域づくりが活発に行われている状態	4,897	4,696	2,382	3,575	課長	0.05 人	順調	地域カルテフォローアップ事業は目標を達成し、地域づくり活動への参加者の割合も概ね目標を達成しているため、「順調」と判断。	【課題】 地域が抱える課題や、その解決に向けた取組みの内容は、様々であり統一的な施策による支援が困難であるが、他の事業局や区役所コミュニティ支援課等と連携しながら、地域が主体的に地域課題を解決することができるよう、住民主体の地域づくりに努める必要がある。	
						実績	4 団体	1 団体	達成率	80.0 %	100.0 %	係長	0.15 人	職員	0.20 人							
Ⅲ-3-(1)-③ 自治会・町内会への加入促進	61	⑪	⑪	市民センターの充実	地域振興課	市民センターの管理運営を円滑・適正に行うため、公募により多様な人材を市民センター館長として採用し、地域の活動を担うまちづくり協議会への管理委託などを行う。	市民センター1館当たりの利用者数	41千人 (H27年度)	目標	42 千人	42 千人	42千人 (毎年度)	2,253,009	2,280,958	2,200,853	46,250	課長	1.00 人	順調	老朽化対策やバリアフリー化等ハード面の整備を、予定通り行うことができた。また、市民センター館長への研修を実施し、まちづくり協議会との連携について、共有することができたため、「順調」と判断。	市民センターを拠点とした地域づくりを促進するため、老朽化対策やバリアフリー化等ハード面を整備するとともに、館長及び市民センター職員の能力向上を図る研修や、タイムリーな情報発信等ソフト面の充実に努め、利用者の増加を図る。	
						実績	40 千人	32 千人	達成率	95.2 %	76.2 %	係長	1.00 人	職員	3.30 人							
Ⅲ-3-(1)-③ 自治会・町内会への加入促進	62	⑪	⑪	自治会・町内会活性化の促進	地域振興課	自治会と連携しながら、加入率向上や組織・活動の見直し及び人材育成など新たな課題への対応につながる様々な事業に取り組み、自治会・町内会の活性化を図る。	地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合	81.0% (H29年度)	目標	85 %	85 %	85% (毎年度)	27,717	27,682	29,455	4,095	課長	0.03 人	順調	地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合、地域づくり活動への参加者の割合については、双方とも目標に近い結果となっているため「順調」と判断。	自治会・町内会を取り巻く課題を解決し活性化を促進するために、マンション等の管理会社等の関係者に積極的に働きかけていくほか、引き続き地域コミュニティの重要性や自治会の必要性について幅広く理解を求め、必要に応じて力を入れていく。また、地域でリーダーシップを発揮する人材や地域活動の担い手育成支援を積極的に行い、自治会・町内会の加入促進や活性化を図っていく。	
						実績	82.3 %	81.4 %	達成率	96.8 %	95.8 %	係長	0.30 人	職員	0.10 人							
Ⅲ-3-(1)-③ 自治会・町内会への加入促進	62	⑪	⑪	自治会・町内会活性化の促進	地域振興課	自治会と連携しながら、加入率向上や組織・活動の見直し及び人材育成など新たな課題への対応につながる様々な事業に取り組み、自治会・町内会の活性化を図る。	地域づくり活動への参加者の割合	39.6% (H29年度)	目標	46 %	46 %	46% (毎年度)	27,717	27,682	29,455	4,095	係長	0.30 人	順調	地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合、地域づくり活動への参加者の割合については、双方とも目標に近い結果となっているため「順調」と判断。	自治会・町内会を取り巻く課題を解決し活性化を促進するために、マンション等の管理会社等の関係者に積極的に働きかけていくほか、引き続き地域コミュニティの重要性や自治会の必要性について幅広く理解を求め、必要に応じて力を入れていく。また、地域でリーダーシップを発揮する人材や地域活動の担い手育成支援を積極的に行い、自治会・町内会の加入促進や活性化を図っていく。	
						実績	40.8 %	42.1 %	達成率	88.7 %	91.5 %	職員	0.10 人									

令和元年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs 主な ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)		R1年度				R3年度予算要求に向けた 施策の方向性					
							指標名等	現状値 (基準値)	H30年度	R1年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の理由及び課題			
Ⅲ-3-(2)- ① NPO・ボラ ンティア 活動の支 援	63	④	④ ⑪	NPO・市民活動促進 事業	市民 活動 推進 課	市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発等を実施する。	新規設立NPO法人数 (累計)	目標	105 法人	120 法人	135法人 (R2年度)	20,750	18,314	18,324	19,725	課長	0.15 人	順調	新規設立NPO法人数及びサポートセンター利用者数が目標を概ね達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 新規設立NPO法人数(累計)や補助交付事業件数(累計)等の成果指標は目標を概ね達成しており「順調」と判断。 【課題】 さらなる市民活動の支援によってNPO・ボランティア活動参加者の掘り起こしにつなげていく必要がある。	市民活動を促進する講座の実施や情報提供の充実を図っていく。			
								実績	99 法人	116 法人						達成率	94.3 %						96.7 %	係長	0.30 人
	サポートセンター利用者数	目標	25,000 人	25,000 人	25,000人 (毎年度)	3,212	2,324	2,539	3,275	職員	2.00 人	順調	補助交付事業件数及び成果発表会の参加人数が目標を概ね達成しているため「順調」と判断。												
		実績	24,338人 (H29年度)	28,683 人										29,293 人	達成率	114.7 %	117.2 %						係長	0.10 人	
64	④	④	NPO公益活動支援事業	市民 活動 推進 課	市民活動の更なる促進を支援するため、NPO等が専門性を発揮して行う活動に対し、事業費の一部を補助する。	補助交付事業件数 (累計)	目標	86 件	110 件	120件 (R2年度)	3,212	2,324	2,539	3,275	課長	0.10 人	順調	補助交付事業件数及び成果発表会の参加人数が目標を概ね達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 新規設立NPO法人数(累計)や補助交付事業件数(累計)等の成果指標は目標を概ね達成しており「順調」と判断。 【課題】 さらなる市民活動の支援によってNPO・ボランティア活動参加者の掘り起こしにつなげていく必要がある。	市民活動を促進する講座の実施や情報提供の充実を図っていく。				
							実績	86件 (H29年度)	99 件						109 件	達成率						115.1 %	99.1 %	係長	0.10 人
						成果発表会の参加人数(累計)	目標	430 人	480 人	530人 (R2年度)					職員	0.15 人									
							実績	378人 (H29年度)	406 人												431 人	達成率	94.4 %	89.8 %	
Ⅲ-3-(2)- ② NPO・企 業、研究 機関など との連携 の構築	65	⑪	⑪	多様な主体による 市民活動の輪づくり事業	市民 活動 推進 課	市民主体のまちづくりを推進するため、市民活動への理解を深め、新たな担い手の参加を促すとともに、NPOと様々な団体間のネットワークづくりや協働を支援する。	NPOと企業・地域・大学等との協働件数	目標	5 件	5 件	5件 (R2年度)	1,323	1,606	1,265	2,470	課長	0.03 人	順調	NPOと企業・地域・大学との交流会等を通して、団体間のネットワークを構築し、協働件数が目標を概ね達成しているため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 協働件数が目標を概ね達成しているため、「順調」と判断。 【課題】 参加団体へのフォローアップ等を行い、団体間の協働事業の立ち上げを支援する。	多様な主体による協働を推進するため、NPO・企業等との交流会を引続き実施し、団体間の協働を支援する。			
								実績	5 件	4 件						達成率	100.0 %						80.0 %	係長	0.10 人
								職員	0.15 人																
Ⅲ-3-(3)- ① 市民参画 と協働の ための仕 組みづく り	66	④	④ ⑪	「NPOとの協働によるまちづくり」人材育成事業	市民 活動 推進 課	協働に関する理解を深めるための研修、協働事業を実施するために必要な団体運営力向上を図るための研修を実施する。また、経済的に自立したNPOの増加を図るため、資金調達力や企画力の向上を図るセミナーを実施する。	NPOとの協働についての研修への参加者数(累計)	目標	1,500 人	1,750 人	2,000人 (R2年度)	1,491	972	991	6,400	課長	0.10 人	順調	NPOとの協働についての研修への参加者数が目標を達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 協働についての研修への参加者数、協働件数ともに目標を概ね達成していることから「順調」と判断。 【課題】 多様な主体による協働をさらに推進するため、各団体間のネットワークをさらに構築・拡大する必要がある。	協働への理解を深めるセミナーやNPOと様々な団体の交流会の開催等、各団体間の自主的な協働の側面支援に引き続き取り組んでいく。			
								実績	1,555人 (H29年度)	1,887 人						2,146 人	達成率						125.8 %	122.6 %	係長
							収入増加団体数(累計)	目標	12 団体	14 団体	16団体 (R2年度)					職員	0.30 人								
								実績	11団体 (H29年度)	13 団体												15 団体	達成率	108.3 %	107.1 %
	67	⑪	⑪	多様な主体による 市民活動の輪づくり事業	市民 活動 推進 課	市民主体のまちづくりを推進するため、市民活動への理解を深め、新たな担い手の参加を促すとともに、NPOと様々な団体間のネットワークづくりや協働を支援する。	NPOと企業・地域・大学等との協働件数	目標	5 件	5 件	5件 (R2年度)	1,323	1,606	1,265	2,470	課長	0.03 人	順調	NPOと企業・地域・大学との交流会等を通して、団体間のネットワークを構築し、協働件数が目標を概ね達成しているため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 協働についての研修への参加者数、協働件数ともに目標を概ね達成していることから「順調」と判断。 【課題】 多様な主体による協働をさらに推進するため、各団体間のネットワークをさらに構築・拡大する必要がある。	協働への理解を深めるセミナーやNPOと様々な団体の交流会の開催等、各団体間の自主的な協働の側面支援に引き続き取り組んでいく。			
								実績	5件 (H29年度)	5 件						4 件	達成率						100.0 %	80.0 %	係長
							職員	0.15 人																	

令和元年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs 主な ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費 (目安)		R1年度				R3年度予算要求に向けた 施策の方向性	
							指標名等	現状値 (基準値)	H30年度	R1年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業 評価	評価の理由		局施策 評価
Ⅲ-3-(3)- ② 市民との 協働を推 進できる 市役所づ くり	68	④	④ ⑪	NPO・市民活動促進 事業	市民活 動推 進課	市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発等を実施する。	新規設立NPO法人数 (累計)	88法人 (H29年 度)	目標 105 法 人 実績 99 法 人 達成率 94.3 %	120 法 人 116 法 人 96.7 %	135法人 (R2年度)	20,750	18,314	18,324	19,725	課長 0.15 人 係長 0.30 人 職員 2.00 人	順調	新規設立NPO法人数及びサポートセンター利用者数が目標を概ね達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 各事業の目標を概ね達成しており、市民との協働を推進しているとして「順調」と判断。 【課題】 市民活動の担い手の育成や、協働に対する啓発をさらに推進する必要がある。	市民との協働を推進するため、協働意識向上のための研修、セミナー等の充実、NPO・市民活動に関する情報提供に取り組む。
	69	④	④ ⑪	「NPOとの協働によるまちづくり」人材育成事業	市民活 動推 進課	協働に関する理解を深めるための研修、協働事業を実施するために必要な団体運営力向上を図るための研修を実施する。また、経済的に自立したNPOの増加を図るため、資金調達力や企画力の向上を図るセミナーを実施する。	NPOとの協働についての研修への参加者数 (累計)	1,555人 (H29年 度)	目標 1,500 人 実績 1,887 人 達成率 125.8 %	1,750 人 2,146 人 122.6 %	2,000人 (R2年度)	1,491	972	991	6,400	課長 0.10 人 係長 0.30 人 職員 0.30 人	順調	NPOとの協働についての研修への参加者数が目標を達成しているため「順調」と判断。			
Ⅳ-4-(1)- ② 偉人・先 人の顕彰	70	④	④	文学館普及研究費	文学 館	北九州市ゆかりの文学者の業績を企画展等で紹介するとともに、本市の文芸の振興に功績のあった文学者を市内外に発信する。	入館者数 ※中期目標改訂 (R2年度目標設定時)	10,741人 (H23年度)	目標 22,000 人 実績 21,711 人 達成率 98.7 %	7,500 人 20,896 人 278.6 %	30,000人 (R2年度)	17,132	8,784	16,912	30,950	課長 0.30 人 係長 0.50 人 職員 3.00 人	大変 順調	文学館は、令和2年3月にリニューアルオープンするため、令和元年9月から閉館していたが、企画展を3回、館外企画展を1回行い、入館者数は目標を上回ったため「大変順調」と判断。			
	71	④	④	松本清張記念館研究センター・普及事業	松本 清張 記念 館事 務局	松本清張に関するあらゆる資料を収集・整理し、松本清張の「人と作品」を研究する調査研究や研究誌を発行する。また、松本清張研究者に奨励金を贈呈する研究奨励事業を実施する。さらに、企画展の開催や講演会、読書感想文コンクールなどの市民文芸活動支援事業を行う。	松本清張記念館の入館者数	58,187人 (H22年度)	目標 前年度 (47,205 人) 比増 実績 42,502 人 達成率 90.0 %	前年度比 増 47,828 人 112.5 %	前年度比 増 (毎年度)	14,855	14,319	27,073	23,250	課長 0.50 人 係長 1.00 人 職員 1.00 人	順調	入館者・企画展の満足度とも概ね目標を達成しており、特に、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和2年2月28日から臨時休館を行ったにもかかわらず、入館者数は増加しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 目標を概ね達成しているため「順調」と判断。 【課題】 更なる入館者数の増加を目指し、より集客力のあるイベントや企画展の開催、若年層などの入館を促す仕組みづくりが必要。	入館者増加に結びつくイベントや企画展に取り組み、来館者やリピーターの増加をはまる。

令和元年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs 主な ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)			R1年度				R3年度予算要求に向けた 施策の方向性				
							指標名等	現状値 (基準値)	H30年度	R1年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の理由及び課題			
IV-4-(2)- ③ 都市イ メージの 向上	72	⑧	⑩	映像製作誘致強化 関連事業	文化 企画 課	映画・テレビドラマ等 のロケ地誘致や撮影支援 を積極的に行い、本市の 知名度と都市イメージの 向上を図る。 また、活動成果の市民 との共有や、「映画の 街・北九州」という都市 ブランドの発信により、 街のにぎわいの創出や市 民交流等のまちづくりに つなげる。	地域経済への貢献 (直接経済効果)	目標	500,000 千円	150,000 千円	150,000 千円 (R1年度以 降毎年度)	46,573	31,650	50,205	47,100	課 長	0.40 人	順調	地域経済への貢献については 目標値に対する達成率が61%で あるものの、撮影支援実績とし ては過去2番目を記録した。 また、市民エキストラ・ボラ ンティア参加人数については、 活動指標の目標値には達してい ないが、これは撮影の規模など 作品の性質に左右されるもので ある。一方、成果指標である認 知度は昨年度を上回り、約90% と高い水準に達している。 以上の点から「順調」と判 断。	順調	【評価理由】 高い認知度を維持し続けてい ることから「順調」と判断。 【課題】 国内外に本市の魅力を発信す る作品の誘致のため、より広く ロケ地候補の情報を集める必要 がある。 新しい生活様式に対応し、衛 生班の導入など、より安全に配 慮した撮影を行うための対策が 必要である。	新型コロナウイルス感染症の 拡大防止対策を行ったうえで、 引き続きアジアを中心とする映 画作品の誘致などに積極的に取 り組み、「映画の街・北九州」 という都市ブランドを国内外に 広く発信していく。			
								実績	187,088 千円	91,540 千円													達成率	37.4 %	61.0 %
								目標	80.0 %	85.0 %													実績	87.9 %	89.5 %